

よき歯科医療人になるための
倫理・プロフェッショナリズム教育



プロフェッション ワークブック

日本歯科医学教育学会
倫理・プロフェッショナリズム教育委員会 編

医歯薬出版株式会社

ブリッジの再製

「20の質問」関連番号

1, 2, 15, 16, 17

私は家の近くのT歯科医院でバイトをしています。1年ほど前にブリッジを入れた患者さんが、ブリッジの調子が悪いのでやり直してほしいとT歯科医院を受診されました。院長のT先生が口腔内を診たところ、ブリッジを支えている歯の動揺度が激しく、この状態ではものを噛みづらいであろうと推察されました。T先生はその患者さんにその状態を説明し、保険診療の場合、ブリッジは2年間は作り直しができない*のもう少し様子をみましょうとあって診療を終えました。

診療後、「あの患者さんはもともと歯周病でブリッジはあまりお勧めしなかったんだが、患者さんの希望でブリッジを入れてあげたんだよ。ブリッジを入れる時にクラウン・ブリッジ維持管理料を算定していたから、やり替えとなるとうちの持ち出しになるんだよな」と困っているようでした。

*クラウン・ブリッジ維持管理料を算定している場合は、その後2年間は同一診療機関において、その間の補綴物再製にかかる費用を算定できない。



解説

患者さんの希望を優先させ、お勧めしないブリッジを入れたところ、やはりそのブリッジの再製をしたほうがよい結果となりました。しかし、ブリッジを作製してから2年が経過していないため、保険診療の場合、補綴物再製にかかる費用が算定できず、料金はその歯科医院の負担になります。お勧めしなかったものの、実際に治療したのはT先生なので、その主たる責任はT先生に帰することになります。このような場合、どのように対処するのがよいのかを考えてもらうことがねらいです。

構造的振り返り

1. 何が起こったのでしょうか？（何が問題なのでしょうか？）

2. なぜ起こったのでしょうか？（なぜ問題なのでしょうか？）

3. 学んだことは何でしょうか？（問題から学んだことは何でしょうか？）

4. 次の目標は何でしょうか？（次に起こった時はどうしますか？）

議論点

1. あなたがT歯科医師ならどのように対処しますか。

学びの振り返り

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

--	--	--

院長からの指示

「20の質問」関連番号

15, 16, 17, 19

卒業して4年目のK歯科医師は臨床研修が修了すると同時に就職しましたが、毎週1日は母校の大学附属病院小児歯科で研修を行っています。3年間勤務した院長の勧めもあって、今春から新たにL歯科医院の副院長として就職することになりました。その日、8歳の女兒が泣きながら母親に連れられて来院しました。L院長から歯冠崩壊した下顎右側第二乳臼歯を抜去するよう言われたので口腔内を診たところ、確かに歯冠の一部はう蝕のため欠けていますが、修復もしくは歯髄処置を行うことで対応できそうだと思います。その旨院長に告げると、「抜きたくなければ抜かなくてもよいけれど、う蝕は感染症だからこの医院ではシビアなう蝕は抜歯して保隙装置を入れてますよ」と言われました。抜歯すると元には戻せないの、L院長とそのことについてしっかり話し合いたいと思いましたが、今日は急患が多く、待合室には予約時間になった患者さんも待っているため、ゆっくり話し合う時間はないようです。L院長とは人間関係がまだしっかりできていないので、院長が提示した治療方針に異を唱えようと、院長との良好な関係が壊れると困ります。でも、抜いてしまったら元には戻せないし……、とK歯科医師は悩んでいます。



構造的振り返り

1. 何が起こったのでしょうか？（何が問題なのでしょうか？）

2. なぜ起こったのでしょうか？（なぜ問題なのでしょうか？）

3. 学んだことは何でしょうか？（問題から学んだことは何でしょうか？）

4. 次の目標は何でしょうか？（次に起こった時はどうしますか？）

患者さんからの一言

「20の質問」関連番号

2, 15, 16, 17, 18, 19, 20

研修歯科医の私は、医科の緩和病棟から紹介された患者Cさん(46歳, 女性)に、診察所見やエックス線検査結果をもとに、歯科治療や口腔衛生管理の必要性を説明していました。すると患者さんは、「いくら歯の治療や歯磨きをしても、私はあと2週間しか生きられないですよ」と言われました。患者さんは、過去に頭頸部がんの手術や放射線や化学療法のために入退院を繰り返していて、今度が4回目の入院でした。Cさんは、病棟の看護師から紹介されて歯科受診をされたのでした。しかし、Cさんが歯科受診を希望していたわけではなかったようです。

事前に医科の診療記録をみていた時に、現在の全身の状況や処置、投薬の内容を確認し、また、がん告知がなされていたことや、その内容も確認できていましたので、頭の中では起こりうることだと意識はしていました。しかし、実際にCさんが他人事のように言う何気ない一言で、頭の中が真っ白になってしまいました。

その時、傍らにいたベテランの歯科衛生士が、患者さんに近づき「そうなんですか……」と言いながらそっと寄り添い、肩や背中を手で触れ、まるで患者さんを支えるような対応をされました。



構造的振り返り

1. 何が起こったのでしょうか？(何が問題なのでしょうか?)

2. なぜ起こったのでしょうか？(なぜ問題なのでしょうか?)

3. 学んだことは何でしょうか？(問題から学んだことは何でしょうか?)

患者とのやりとり

「20の質問」関連番号

13, 16, 17, 19

男性研修歯科医のC歯科医師は、初診患者の女性Fさん(25歳)の担当になりました。Fさんとはラポールが取れ、治療にも満足していただいていた。また、治療前後の会話もよく弾み、治療を数回したくらいからC歯科医師はFさんの診療日が待ち遠しいくらいになっていました。あまりに気が合ったので、ある日の治療後、C歯科医師は思いきって、Fさんを食事に誘ってみました。すると、「私、彼氏がいるので、お断りします」との返事でした。

翌週、C歯科医師は気が重かったのですが、Fさんの診療予約時間前に治療の準備をして待っていました。しかし、Fさんは来院されませんでした。



構造的振り返り

1. 何が起こったのでしょうか？(何が問題なのでしょうか？)

2. なぜ起こったのでしょうか？(なぜ問題なのでしょうか？)

3. 学んだことは何でしょうか？(問題から学んだことは何でしょうか？)

4. 次の目標は何でしょうか？(次に起こった時はどうしますか？)
